



地区広報

おやまた

第2号

57. 3. 31

米づくりと 全住民に楽しい文化を



米づくりと

小山田の原点は坂道の多い古らしにあるが、その暮らしを古くから支えてきたものは、水稻作である。

今日、米作は生産過剰といふことで軽視されているが、戦時、戦後の食料難、闇米時代を経験したものにとって、米の価値はどうに強調してもしきではない。また、日ごろ感じているのであるが、小山田の米はたいへんおいしい。昨年インドに小麦を焼いてつくったチャバティ（主食）なるものを味わつた。最初は珍しかつたが、やがて食欲がなくなつて困つた。

生活が貧しいので、インドの農民は一週間に一回か二回しか食べないという米すら水分が少なうバサバサしており、日本の米とはとても比較にならないます

だつた。

不斷から労せずしてお米をいただいているので、少々口はぱつたいが、どうかこれからもおいしい米をたくさんつくつてほしいと願わずにはいられない。

統計によると、日本の食料の総合自給率（日本人の食料を日本国内で供給できる割合）は年々低下し、昭和三十五年は九三であったのに、昭和五十四年は七六になつたという。そしてそこから米を除いてみると、驚くなれば、穀物の自給率は八二か七三にまで激減するのである。

豊葦原瑞穂の国をなつかしむものにとって、正に異常事態とか思えない。その中で米のみが自給率一〇三から一〇七へと増

えており、わたしたちの食生活の安定に大きく貢献しているのである。小山田の住民として、昔も今も、米づくり農家への期待は決して変わらないことを強調したい。

さて、最近小山田地区において、余暇を楽しみ、それぞれ自由かつ豊かな生活を営む傾向が強くなっている。地区運動会や文化祭は年々楽しく華やかである。運動会のあの仮装風景などは、写真を見ていても楽しげが伝わってくるようだ。夏休みの子ども会の楽しそうな親子の行事、老人クラブのゲートボール等の若やいだ活動、市民センターにて各種クラブ活動の盛況等々のように、小山田の現住民は、古来からの祭りや社寺詣り（昔はこれらが楽しい宗教文化行事であった）はいうまでもなく、多種多様の娛樂や文化を求めているのである。

小山田は坂道と水稻の草深い田舎から脱皮しようとしている。すでに、ミルク道路をはじめとする交通路の整備、山林、農畠の再開発に動きしがみられる。四日市市当局にも地区再開発の青写真があると聞く。この一大変革期にあたり、小山田の住民は、一方において米づくりの基礎を確保するとともに、他方ににおいて、住民の生活志向をより拡大させ、福祉に目を向け、すべての人々にとって、真に生きがいの感じられる楽しみの多い諸活動をより一層工夫し、創造したいものである。

（中村）

明るい家庭 住みよい町に

堂ヶ山町 市川 和代

今日、子どもたちが健康でたくましく育つてほしいと思うのはすべての親の願いです。ところが親の気持とは正反対に青少年の非行が増加の傾向にあります。

児童生徒の登校拒否、校内暴力、家庭内暴力事件など全国的に大きな社会問題となり、マスコミで報道されています。

特に中学生の万引、喫煙、シンナー遊び、不健全娯楽など非行が低年化の一途をたどっています。

これらの原因は決して単純な

任主義やら、甘やかし、過保護など、問題も多くあり、もう一度、家庭を見直し、家庭教育の重要性を再認識し、一そく親と子の対話をすすめ、円満な家庭づくりを、私たち親としての義務と責任を果たすように、心がけたいと思います。

地域においても、社会福祉協議会組織を中心に地区総ぐるみで青少年の非行化防止と健全育成をめざして、明るい家庭、住みよい町づくりをおしすすめようではありませんか。

子どもに 暖かい日を！

鹿間町 山家多喜男

その国の将来は、その国の子供達を見ればよく分かると言わっている。同じことは小山田地区の将来は、小山田の子供達の健やかな成長にかかっていると言えるだろう。

ところが現状はどうだろうか？すでに非行の低年令化はこの小山田の地にも押し寄せており、小学生の中にもいろいろ問題のあることが伝わっている。

現在我々の子供会育成会には、



地区役員をはじめ各町委員、保護者会役員など、多数の人々が係わっており、スポーツに、クリエーションにと、子供達といつしょになって、ボランティア活動を続けています。非行の芽を絶やすまでには至つてはいる。

子供達がより良き社会人となるためには、学校や家庭での教育やしつけだけでなく、地域社会の中で、いろいろな世代や環境の人々とかかわり合い、遊んだり、協力し合う、生きた社会勉強の場を与え、大人達がそれを暖かく見守つてやることが大切である。

小山田の子供達を少しでも良くしようと、関係団体が連携をとり、住民の方々も参加して、地域ぐるみで取り組んで頂ければ、それが大人達の連帯を深め、真の小山田の地域社会づくりにつながるのではないか。

明るい町に！ 挨拶をかわし

鹿間町 一女性

わたくしは、恵まれた風土と環境の小山田地区の中で、感動し、喜び、苦しみ、また悩みつつ日々を過ごしています。

そんなある日、小山田地区広報の原稿募集の案内が目にとまり、文章を書くなどとてもが手な私ですが、少しでも小山田のみなさまにささやかな気持ちをお伝えできたらと思います。

私は鹿間地区に住む小学校三年と、保育園に通う子がいるまだ若い（自分一人で思つて）いる）母親です。

最近感じたことですら、家族の間で、近所の人どうし、子どももどうし、そしてお年寄りの方に明るい挨拶の声が聞かれています。

あなたかい人間関係を作るた

めの基本は、簡単な挨拶から始まるのではないでしょか。
私もここ数年、振り返ってみて大きな声で挨拶することを忘れているような気がします。
「あの子どもどこの子？……」同じ地区にいてこんなことありませんか？

もつともと小山田のたくさんの人と挨拶をかわしたら、ふれあいの輪を広げることができたら；活気のある明るい町に変身するのではないかでしょう。いま地域の人間関係を結び直し、他地区に負けない積極的な小山田に変わらなければと思いります。

いつしか、小山田の子ども達が大きくなつた時、子どもの心中に「ふるさと小山田」がなつかしく感じられる町になるよう願う次第です。

いつしか、小山田の子ども達が大きくなつた時、子どもの心中に「ふるさと小山田」がなつかしく感じられる町になるよう願う次第です。

大人が良い手本を見せないかもしれません。

自分の命を守るために、一人一人が交通安全を守るようにした

暴な運転はしないでほしいと、いつも願つていています。

でも、いくら大人の人たちが注意しても、私たち子供が気をつけなければどうにもなりません。道いっぽいに広がつて歩いたことはありませんか？

大人が良い手本を見せないから、子供たちだって交通安全とう言葉を忘れてしまったのか

も知れません。

自分が命を守るために、一人一人が交通安全を守るようにした

ああ」と思います。

私は、通学班の班長として、みんながけをしないよう心がけています。



人々の連帯で

小山町 長谷川文教



いきがい農園
のんびりとしたおおらかな町
・小山田はどこへ……。「ああ、昔はよかつた。」という声をよく聞く。食物・衣類もあまりなく生活的に苦しい時代であつたのにどこがよかつたのか。そして現在、私達は何不自由なく育ち、物質的にはめぐまれよき時代だと思う。でも、社会はどんどんと曇り、特に人間関係や精神的な面で暗黒化しつつある。そして私達の町へも……。最近、町で出合つても挨拶することが少なくなった。年輩の方は、実際に気持ちよく会釈して話をする。私もそうですが、今の若い人は、会釈されません。そうした原因はどこにあるのでしょうか。

誰もが今の社会状況に流され忙しくなり、それだけ町の人とのつき合いも減つてきてているのであります。そして、町、地区の運営に協力することは自分の収入を減らなくなつた。年輩の方は、実際に気持ちよく会釈して話をする。

私もそうですが、今の若い人は、会釈されません。そうした原因はどこにあるのでしょうか。

住民のみなさんはあまりにも身近すぎて、また平和すぎて、町のよさ・地域社会の必要性を忘れてはいるのではないでしょうか。日常生活全般を通して互いに助け合いながら直接のかかわりあいを持ち、社会の流れに乗じたり遅れず、また流れらず、しっかりととした方向性を持つて時代の先取りをした町作りが必要ではないでしょうか。すばらしい町には、連帯感があふれ人々の自主的な助け合いや行動が盛んになつていています。まず最初に、自分自身が気軽に挨拶や会釈をかわせるようになり、楽しく誰とも話し合える魅力ある人になることだと思う。そして明るい町づくりはそこに住む人々からつくつていかなくてはいけないのではないか。

いきがい農園
のんびりとしたおおらかな町
・小山田はどこへ……。「ああ、昔はよかつた。」という声をよく聞く。食物・衣類もあまりなく生活的に苦しい時代だと思う。でも、社会はどんどんと曇り、特に人間関係や精神的な面で暗黒化しつつある。そして私達の町へも……。最近、町で出合つても挨拶することが少なくなった。年輩の方は、実際に気持ちよく会釈して話をする。

住民のみなさんはあまりにも身近すぎて、また平和すぎて、町のよさ・地域社会の必要性を忘れてはいるのではないでしょうか。日常生活全般を通して互いに助け合いながら直接のかかわりあいを持ち、社会の流れに乗じたり遅れず、また流れらず、しっかりととした方向性を持つて時代の先取りをした町作りが必要ではないでしょうか。すばらしい町には、連帯感があふれ人々の自主的な助け合いや行動が盛んになつていています。まず最初に、自分自身が気軽に挨拶や会釈を

明るく住みよい

交通安全は まず自転車から

西陵中学校 金田潤一郎

私達の西陵中学校では、大部分の生徒が自転車通学を行なっています。自転車は私達にとって大切な交通の足なのです。自転車通学には、楽しさもある反面私達の大切な命を一瞬にしてふきとばすほどの危険性もあります。昨年もその犠牲者を出してしまいました。

こんな事故をなくすために、私達の学校には、交通安全委員が毎年活動をしてきました。この活動を始めたとき、はたしてそのルールを守ることができるでしょうか。

わが、小山田連合青年会に、「女子活動部」なるものが誕生して早や一年と半年になります。しかし、存在感は薄くまだだこれから……というのが実情です。

部員の中でも、はつきりとした方向性がつかめきつていないので、残念ながらそういった問題らしい意識がないため、行事をやってきてはいるものの、今ひとつ盛りあがりが見られません。

この小山田に

生まれたものなら消してしまいたくない少しでも成長させていきたい、そう願つてもいるので

うか。決してできないと思います。交通ルールを守る厳しさが身についていないからです。私が、今、自転車に乗るときの規則に反して勝手な行動をとる生徒がいるのも現状なのです。私は交通事故を他人事のようにしかし、それにもかかわらず、規則に反して勝手な行動をとる生徒がいるのも現状なのです。私が次の犠牲者になつてからではもうとり返しがつきません。

また、自転車は小さな交通の足ですが、そのささいなルールを守れないような人間が、将来自動車やオートバイに乗るようになつたとき、はたしてそのルールを守ることができるでしょうか。



女子活動部の着付講習

女子活に対する一般女子団員の感じも少なく、行事への参加も頼んでやつと来てもらうとか、返事だけで当日の参加は期待できないことが多い。

また、世間一般的の女子活に対する理解もごくわずかで、女の子が夜出かけたり、遅く帰ってきないことが多い。

この小山田に生まれたものなら消してしまいたくない少しでも成長させていきたい、そう願つてもいるので

うか。決してできないと思います。交通ルールを守る厳しさが身についていないからです。私が、今、自転車に乗るときの規則に反して勝手な行動をとる生徒がいるのも現状なのです。私が次の犠牲者になつてからではもうとり返しがつきません。

また、自転車は小さな交通の足ですが、そのささいなルールを守れないような人間が、将来自動車やオートバイに乗るようになつたとき、はたしてそのルールを守ることができるでしょうか。

このように、大きな問題に対する理解も継続化せず、やることに行き詰まりを感じてしまふ……。

それは、皆様あつての女子活動部です。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



地域スポーツに参加し 連帯意識を高めよう

昨年の体力づくり市民大会には、シンボルマークを染め込んだ地区旗が小山田地区選手団の先頭に掲げられ、堂々と入场行進が出来ました。選手一同より一層団結心が湧き、女子バレーボールはブロック優勝、男子ソフトボールもブロック準優勝ゲートボール、陸上競技も頑張つ



地区運動会仮装大会

てよい成績を残しました。今年も尚一層の成果が上ることを確信いたしております。

小山田地区体育振興会も発足してから、十

周年を迎えることがで
き、諸先輩のご尽力に
より組織も立派に活動
を展開しております。

地区運動会では仮装行列や抽
選を行ない趣向をこらして好評を得ました。年々参加員も増し、
小学校のグランドでは狭さを感じる程です。今年も年に一度の
親睦と体力作りを兼ねた地区住
民の連帯意識が向上する唯一の
います。



恵まれた自然の中 オリエンテーリング大会 子供会育成会

地区子供会主催の今年度最後の行事として、小山田地区オリエンテーリング大会を、二月二十一日(日)、旧三鈴中学跡地を基

男子一位 伊藤光春、宮崎浩樹
男子二位 平山喜史、平山正人
入賞者は次のとおりです。

前日の雨のせいで少し足元がよくなかったですが、八十名近い参加があり、小山田の恵まれた自然の中を楽しく一日駆けまわることができました。

現在、子ども、青年、成人、老人層とそれぞれ活発な活動を行なっています。

団員たちのみの活動になつてゐると思います。

より多くの 人たちとの 交流を

青年会より

現在のわれわれの組織では、ある年令に達すれば退団し、疎遠化しているようになつていまます。もっと退団した団員も今後は時折顔を出すなりして、後輩の指導や助言を願つて、人間関係を保つてほしいのです。そ

して今後私たちが三十、四十、五十……と歳月を経てもなお、青年会活動への关心と期待が得られるのではないか。

現状の青年会活動も、各町でそれぞれ自主的な活動を持つてますが、それは地域社会に貢献する面もあるものの、青年団

しては、これら地区民すべてが一体となつた活動や行事は比較的少ない。より多くの人と交流ができるよう望みます。

今後はもっと関係する年代層だけの行事でなく、他の年代、組織等が参加できる様な行事に、またその方向に行けるような催しが出来たらと思います。

こうしたこととは、ひいては今強く望まれている地域社会づくりの根底であり、基本であるかとも思います。

小山田連合青年会の現状									
		町		町		町		町	
田	間	山	山	田	間	山	山	田	間
3	8	名	名	名	名	名	名	(男24、女14)	
3	2	名	名	名	名	名	名	(男16、女16)	
4	5	名	名	名	名	名	名	(男31、女14)	
1	2	名	名	名	名	名	名	(男11、女7)	
2	3	名	名	名	名	名	名	(男8、女15)	
9	9	名	名	名	名	名	名	(男5、女4)	

(56年度地区市民センター資料)

その2

女子一位 伊藤由美子

平山幸弘、古市裕治
坂崎友子、加藤珠美

家族一位

古市智彦、古市さき
伊藤和哉、古市美紀

健康と親睦に！

ゲートボール盛況

最近ゲートボールが盛んになり、各地で楽しくおこなわれています。

当地区でも、高令者が三年程

前より鹿間町を皮切りに各町で行なわれており、参加者も次第に増えづけています。

三月二十七日には、小山田老人ホームで模範試合を行なうなど、ますます盛んになっています。

このゲートボールは、高令者の運動に適し、健康や親睦に、またお互いが楽しく交流し合う場としても、大いに役立っています。



小山田イレブン 走れ！

全町に ソフトボールチーム

十年前から、地区

内各町でソフトボールチームがつくれられました。健康に親睦に、今では全町にチームがつくれられ、練習や、試合ばかりではなく、地域社会に役立つような奉仕活動も行なわれています。

各町チームは、小山田体育振興会としてまとまり、地域での体育発展に大きな役割りを果たしています。

小山田サッカー少年団は、結成以来四年になります。

結成当時、メンバーは十数人でしたが、毎年指導者、保護者の情熱で今年は五十九名の団員で毎日元気よく練習に励んでいます。

小山田ママ少年団は、結成以来四年になります。

小山田サッカー少年団は、結成以来四年になります。

各町チームは、小山田体育振興会としてまとまり、地域での体育発展に大きな役割りを果たしています。



ママさんバレー =小山田ヤング=



団体、クラブ活動状況

ンテーリングにも適した山林がある。欲をいえばナイター設備がほしいことである。

サッカー少年団、小山田ママさんバレークラブにつづいて、これも小学校PTAの発起で、昨年九月に「小山田バトミントン同好会」が発足しました。

バドミントン同好会

同好者三十五名、毎週木曜日に小学校体育館で練習してきました。

定員四十名で、学生以外の地区内住民なら、老若男女を問わず入会することができます。

健康保持と、親睦を目的として、いまランニング、体操、そして基礎的な練習を行なっています。

健康保持と、親睦を目的として、いまランニング、体操、そして基礎的な練習を行なっています。

西陵中、小山田小学校など、スポーツをおこなうには、恵まれた施設がある。市内中心部の人たちのように場所さがしがしなくてもよい。ジョギングにはもつてこいの道路もある。オリエンティリングにも適した山林がある。

そこで提案だが、一戸に一人は参加できるスポーツを計画的に催してはいかがかと思う。小山田が活気のある明るい町に、住む人々の連携がより高まることは、まずスポーツから思う。

西陵中、小山田小学校など、スポーツをおこなうには、恵まれた施設がある。市内中心部の人たちのように場所さがしがしなくてもよい。ジョギングにはもつてこいの道路もある。オリエンティリングにも適した山林がある。

そこで提案だが、一戸に一人は参加できるスポーツを計画的に催してはいかがかと思う。小山田が活気のある明るい町に、住む人々の連携がより高まることは、まずスポーツから思う。

みんなで スポーツを

山田町 Y・Y

小山田広場（旧三鈴中学校跡）西陵中、小山田小学校など、スポーツをおこなうには、恵まれた施設がある。市内中心部の人たちのように場所さがしがしなくてもよい。ジョギングにはもつてこいの道路もある。オリエンティリングにも適した山林がある。

そこで提案だが、一戸に一人は参加できるスポーツを計画的に催してはいかがかと思う。小山田が活気のある明るい町に、住む人々の連携がより高まることは、まずスポーツから思う。

西陵中、小山田小学校など、スポーツをおこなうには、恵まれた施設がある。市内中心部の人たちのように場所さがしがしなくてもよい。ジョギングにはもつてこいの道路もある。オリエンティリングにも適した山林がある。

そこで提案だが、一戸に一人は参加できるスポーツを計画的に催してはいかがかと思う。小山田が活気のある明るい町に、住む人々の連携がより高まることは、まずスポーツから思う。

私達の小山田が、自然に恵まれた明るく住みよい豊かな町であることを望むのは、共通した願いであると言えます。

市民センターや、公共施設を利用してのサークル活動を始め、各種団体での自主活動、地区全体での催し等が年々活発になってしまっていることは、新しいコミュニティを形成してゆくなかで、自からの手で築かれてゆかなければならぬものであることが、理解され浸透してきた成果であると言えます。これには何よりも地区の皆様方のご協力があつて始めて実現したものであると深く感謝する次第です。

人々の連帯意識に支えられた

根強い日々の実践活動を通じて醸成せられるもので、参加することに意義があると確信しております。

また、地域振興の重要な課題である「南北道路」の整備は、地区住民の多年の念願であり、これが実現には、数多くの難題を抱えておりますが、皆様方の一致団結したご協力と、ご支援を仰がなければなりません。地区の皆様方の貴重なご意見、ご提案とともに、さらに積極的な建設的なご意見を頂戴して、共通の場で考え、論じて、明日の町づくりの資としてゆきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げる次第です。

好評でした………

はじめての 文化祭



昨年十一月八日、文化祭が、小学校PTA主催、地区諸団体連絡協議会共催

でござりました。
盆栽、書道、生花、手芸品児童作品、民踊、詩吟などの芸能発表、郷土資料展示、消防署の協力で、防災用具展示、起震車体験、ア

マ無線実験、その他バザー、カラオケ大会など盛況でした。
今年も地区をあげて文化祭を催しましょう。

時代は移り、社会は大きく変つていなくなつて、各町のお寺の本堂や集会所を会場にお借りして、老人会を対象とした高令者教室を開いています。

健康でありたい、しあわせになりたい……これはみんなの共通した思いであり、願いであります。

生きがい、そして充実した日々を送ることができるよう……と高令者教室では、「老人の生活」「老人の果たす役割」「家庭のしあわせ」「世の中の情勢」等より広い視野を求め、時代に遅れないようにと参加する人々のほうへ、お若い方々の参加もいただき共に考え、話し合うことを望んでいます。



いま地区市民センターでは

こんなクラブ活動が……

あなたもどうぞ！

グループ名	活動日
生花、茶道	毎週火曜日
民詩	毎月第1・3水曜日夜
民書	毎週木曜日
婦人会	毎月第2・4金曜日夜
婦人会 生花	毎月第1・3水曜日午後

〈お問い合わせは地区市民センター（28-1004）まで〉

各町で高令者教室



加富神社

文・(総代)田中弘治郎

(山田町字吉田ヶ原二

八九番地)

一、二祭神
にぎはやひのみこと
すさのをのみこと

ほか二十四柱

一、お祭り日
としごい祭、三月九日
大祭、十月十日
新じょう祭、十二月七日

天地の恵みと、富徳を更に二倍、三倍とつけ加えていたく神様神様のお徳と、お力をたたえて「加富(かふ)」の名前がつけられたと云われております。

一、ご由緒
千数百年の昔、清らかな水が湧き出ている吉田ヶ原の一隅に、私たちの祖先が住みつきました。山を耕して田や畑をつくり、その日その日の生きて行くため糧を栽培して、たのしい平和な生活をつづけておりました。

一、ご神徳
にぎはやひのみことは、遠い昔に神武天皇に従つて日本国じゆうの悪い者を退治され、平和で豊かな日本の國が出来るため、一生懸命に努力されました建国の大功労者です。



大正十五年四月には、山田町自慢の立派な拝殿が再建されました。(名大工、山田町故矢田三治郎氏の力作です)

また昭和五十四年三月には本殿、玉垣の修復と共に杜務所が改築され、位の修練の場とし、慰安の

名町

加富神社

美里

神を迎えた。

災難や、疫病を追い払い、福を授けてもらうため信仰して幾百年が経ちました。

今から千百年の昔、延喜(えんき)年間には四日市中に六つの神社がありました。そのうちの一つとしてこの加富神社の名前が記されている古いお宮です。

文永九年三月(七百〇九年前)、神主秦清大守綱安はたせいたのかみつなやす(は)は本殿及拝殿を再建したと棟札(むなだ)に記帳されています。

応長元年二月(四百二十三年前)にも大修理したと書いてあります。正徳三年八月二十八日(二百六十八年前)時の帝(みかど)中御門(なかみかど)天皇より、正一位の神位の宣下(せんげ)を賜わりましたので、正一位加富神社と申し上げるようになりました。

美里町由来記

文・佐野 進二

所として、広く利用されています。
付記(昭和の始め頃の話)
山田町の自慢は一つ、加富の拝殿。二つ、には北川原の永久橋(足見川上)。三つに、元小学校の講堂(昨年取り壊したもの)

青木橋を渡り、左へ曲がると松林の広い台地になる。そのすぐ道の際に、立派な笠野記念碑と、「左どうげ山」と書かれた、長さ四十センチメートル、幅二十七センチメートル角ぐらいの道標が、草の中から頭を出している。この細い山道を三キロメートル程行くと、山田・堂ヶ山を結ぶ県道に出る。その中間に西山・下河内を結ぶ山道がある。西山へ行くには、鎌谷川があり、幅一尺、長さ二尺ほどの道板が橋の役目をしている。しかし、牛馬車は川の浅い所をいきなり渡つて行くのである。人は何やら話しながら足早に通り過ぎていく。

重なり、その夜も酒盛りをしてるために菰野城下に出かけ夜盗を働いていた。こんなことが度々つり寝こんだ所を、百人近い城の追手に見つかり、どうすることも出来ずに切られてしまつた。頭領一人が近くの弁天谷に逃げこんだが、見つかって討たれ、みんな一緒に埋められてしまつたのだった。

それから長い年月が流れ、開畠に挑戦する人が五、六軒、



それが大平洋戦争の真っただなか、さに大平洋戦争の真っただなか、国を揚げて食糧の増産が叫ばれ、この地も、地元の応援を得て一息に開墾されたのである。しかし、機械もなく、肥料は少なく、みんなつき込んだあげくに失敗引き揚げてしまった。そんな中、一軒だけが、苦心惨憺してこの地を後にした。そして、何か遂げた人たちが、現在の美里町を造り上げたのである。

それから長い年月が流れ、開畠に挑戦する人が五、六軒、

これではいかと思うが、何を作つてもうまくいかず、食べ

れない。そのため、野武士達二十人ほどが、この松林の中に住みついた。たぶん、この

開畠に挑戦する人が五、六軒、

これではいかと思うが、何を作つてもうまくいかず、食べ

れない。そのため、野武士達二十人ほどが、この松林の中に住みついた。たぶん、この

開畠に挑戦する人が五、六軒、

これではいかと思うが、何を作つてもうまくいかず、食べ

れない。そのため、野武士達二十人ほどが、この松林の中に住みついた。たぶん、この

開畠に挑戦する人が五、六軒、



觀音菩薩（光善寺）

わからぬ田町

和無田の起源は古く、「古事記」の時代へさかのばることができる。それは、倭建命が三重郡より采女の杖衝坂に至る、いわゆる巡見街道が開けてからのことであり、当時の町を和田といつた。

奈良時代、御在所岳に弘法大師が来られて、不動尊像をもつて三岳寺を開かれた。それ以来御在所岳は、真言大日如来の山として御岳信仰が盛んになり、全国から修験者が集まり、入道ヶ岳がその修法の山となつた。

一方、弘法大師は、御在所岳を下つて和無田に到着され、この地に一つも寺がない人々の心が荒れているということで、観音菩薩のご彫刻をされ、觀音寺

和無田町

和無田町の起源は古く、「古事記」の時代へさかのばることができる。それは、倭建命が三重郡より采女の杖衝坂に至る、いわゆる巡見街道が開けてからのことであり、当時の町を和田といつた。

奈良朝から平安朝にかけ、和無田観音寺の田は天領となり、御供田となつた。田も上田であり、よい米ができたのである。

この寺を金剛山和合院観音寺といい、觀音菩薩像は今に伝えるところである。

奈良朝から平安朝にかけて、和無田観音寺の田は天領となり、御供田となつた。田も上田であり、よい米ができたのである。

この寺を金剛山和合院観音寺といい、觀音菩薩像は今に伝えるところである。

和無田の庄屋は中沢家が長く泉院の御代、時の陰陽師で有名な、阿部清明はこの觀音寺に来て祈願をし、靈夢をこうむり、その後天下の陰陽師となり、藤原氏のために力をかした。

雨ふりよ
雨ふつてたまれば
と、雨乞いの歌をうたつた。弁天さんは水の仏さまである。弁天池で雨乞いをし、また、鈴鹿山系の一つ雨乞岳にも登り、雨乞いをした。この行事は、戦争を境に途絶えてしまつた。

時は寛正年中、小松中山寺に滞在しておられた高田本山専修寺第十代御法主真惠上人は、和無田へこられた。当時の道は今から約の坂を上り、西の「山の神」の前を通って光善寺にこられた。光善寺は、今の和無田製茶の西にあり、そこに山伏の美濃坊が修行をしていた。その子に誓休法師がいた。美濃坊は先の御在所三岳寺と関係の深い平野新田開祖、平野清左工門という方が京都から来られておりました。

西山町の東端、平野新田は、田の小字名のごとく平野清左工門という方が京都から来られておりました。

延宝年中京都の産、平野清左エ門来りて平野新田を開拓、産土の神に八所御靈神を勧請し奉る用水のため池を作り辨財天を勧請して守護神とす。枝郷を西山と称す。

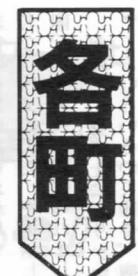
西山町の東端、平野新田は、田の小字名のごとく平野清左工門という方が京都から来られておりました。

延宝年中京都の産、平野清左エ門来りて平野新田を開拓、産土の神に八所御靈神を勧請し奉る用水のため池を作り辨財天を勧請して守護神とす。枝郷を西山と称す。

西山町法龍寺におきましては平野新田開拓の恩師として労苦を感じ、報恩のため、毎年四月の好日を選んで追善法要を致しております。

西山町法龍寺におきましては平野新田開拓の恩師として労苦を感じ、報恩のため、毎年四月の好日を選んで追善法要を致しております。

西山町法龍寺におきましては平野新田開拓の恩師として労苦を感じ、報恩のため、毎年四月の好日を選んで追善法要を致しております。



和無田・西山 山田・内山

つとめた。中沢家は、清和源氏の流れを汲み、家は途絶えたが今日で三十一代に至る。中沢家の弓道をした場所が的場である。池を左に、内部川を右にして、背後に鈴鹿の山々を眺望することができ、自然の中で弓道を楽しむに最もよい場所であったといえよう。他に、黒田、井上、辻など古い家である。

和無田の池には島があり、弁天が安置され、白蛇がいた。夏、田に水のない時、町内の人々が集まり、雨乞いの行事をしました。その時、太鼓をたたき、

さあさあふれよ
雨ふれよ

和無田の在所は、はじめは現在の田にあった。古市場より内部川に沿つて鹿間に至り、鹿間の馬頭観音を拝み、そして和無田に至り、觀音寺にお参りして沓掛坂を登り、光善寺に参詣し巡見に至るのが当時の主要道であつた。在所は、内部川より低

たところが、どちらの和田かまぎらわくなり、人々が混同するために、北の和田を和無田と変更した。和田で無いという意味である。これは江戸時代に変更された、今日にいたる。
また、長く亀山藩であった和田は、江戸末期に三重郡となつた。
和田という地名は亀山藩に二つあった。一つは現在の亀山市の和田である。他の一つは和無田の和田である。はじめ、亀山の和田を南の和田と言い、和無田の和田を北の和田と言つた。
和無田の在所は、はじめは現在の田にあった。古市場より内部川に沿つて鹿間に至り、鹿間の馬頭観音を拝み、そして和無田と変更した。和田で無いという意味である。これは江戸時代に変更された、今日にいたる。
また、光善寺に伝わる「釋尊涅槃図」は、江戸時代のものであるが、その大きさといい、絵画の手法のすぐれたものである。これは江戸時代に変更された、今日にいたる。
また、長く亀山藩であった和田は、江戸末期に三重郡となつた。

かたために、たびたび水害に出会い、ついに江戸時代元禄の頃に、すべて現在の丘陵地帯に上がつた。
その他、農業用灌漑用水「マンボ」があり、これは、江戸時代多くの人々の努力によってできたものであるが、今は水が少ない。しかし、地理学会有名になつており、見学者が絶えないと、明治には鈴鹿郡となつた。さらに、昭和二十九年四月に四日市市に加わり今日に至つたのである。

和田といふ地名は亀山藩に二つあった。一つは現在の亀山市の和田である。他の一つは和無田の和田である。はじめ、亀山の和田を南の和田と言い、和無田の和田を北の和田と言つた。
和無田の在所は、はじめは現在の田にあった。古市場より内部川に沿つて鹿間に至り、鹿間の馬頭観音を拝み、そして和無田と変更した。和田で無いという意味である。これは江戸時代に変更された、今日にいたる。
また、長く亀山藩であった和田は、江戸末期に三重郡となつた。
和田といふ地名は亀山藩に二つあった。一つは現在の亀山市の和田である。他の一つは和無田の和田である。はじめ、亀山の和田を南の和田と言い、和無田の和田を北の和田と言つた。
和無田の在所は、はじめは現在の田にあった。古市場より内部川に沿つて鹿間に至り、鹿間の馬頭観音を拝み、そして和無田と変更した。和田で無いという意味である。これは江戸時代に変更された、今日にいたる。
また、長く亀山藩であった和田は、江戸末期に三重郡となつた。

山田町

文・伊藤 育

山田の観音さん

二月十七日、十八日

山田町では毎年観音菩薩供養

を営む習わしになっています。本年も皆様のご協力を得て盛大に催されました。

大正九年に現在の観音堂が建てられた時の記録によると「此の二菩薩は当村の旧寺長谷山万松寺の本尊にて後、深光山法源寺に安置されていたが廃寺となりし故に明治八年頃當山に預る。万松寺廃寺後六右エ門が保持セリと見え、六右エ門観音ともいふ」万松寺については、現在定かでなく「長谷」「観音田」と呼ぶ地名から旧寺を偲ぶより術とてないが、法源寺については簡単な資料から安政元年六月十四日の大地震により庫裡、本堂共に倒壊。それから二十年余りになる明治六年、廢仏毀釈により廃寺となっている。この廃寺と山田との関係等については詳かに出来ないが、本尊の觀音菩薩を安性寺へ、お釈迦さんは曉覚寺へ預け、本堂を波木町の了信寺へ売却した記録が残されている。

今から四百年の昔、この地方はあちらこちらに小さな城、あるいは城とは呼ばれないような

土里、とりで、柵が築かれ設けられて、思い思いに土豪たちがひしめき合っていた。ある日突然に手下を引きつれた隣の土豪が攻めこんでくる。民家も稻毛たちまち火をかけられ、恐ろしい刃物の嵐だ。生首がころがり、草は血糊にぬれる。女たちは戦いの後のよいなくさみものだ。

夫役に狩り出され、夏の闇の中には螺貝が響き、絶叫が野を走る。農民たちは暗い木立ちの中で息を殺してふるえ続ける。夜が明け人影がなくなったのを見すまし恐る恐る草葺の家に帰れば、わずかな道具はけ散らされ踏みくだかれ、今日の米さえ奪い去られている。これは三重國

盜り物語の一節だが、戦国時代にはこれが現実の社会だっただろ。山田の農民、いや我々の祖先がこんな時代にも耐えて土地を守り、部落の人々が助け合いながらの生活の中で何をよりどこ

し合いの中から決意をみたことと推察出来る。本堂の売却代金がどのように処分されたかは現時点で詳らかにできなかつ

(註) 寛永十九年(一六四二)山田の農民の一部が移住して内山をつくるとある。お宮さんは天正十一年(一五八三年)加富神社より分けて内山に祀られたようである。内山へ移り住んだのはかなり前からのようである。愛宕さん、山の神等俗名が残つており、その地には祭神がまつられているのである。

昔は分限者があつた。その一人久兵衛さんはお茶の売買で大いに産を成し、横浜へ商用に行き後年「東京、横浜間を岡蒸氣はスッと行く」と、そのハイカラぶりを村の人々に話したといふ。手揉み茶の製造がはやって、製茶職人が旗をたてて江州(今滋賀県)から往来した一人がある時、出稼ぎ先の角力大会に参加して土俵上で仁王立ちになつたところ、その土地の若者が恐れて尻込みしたので「弱虫じやのう」と笑つたところ、角力に負けるとは思わんがお前の

内山町

文・矢田 哲



内山町遠望



観音堂 (安性寺)

ろとし、何を求めて生きてこられたか? 私の想像にしかすぎないが、寺、み仏にそのすべてが求められた心情がうかがわれる。話を元に戻るが、本堂を売り

く幾晩もの話のか。おそらく

話しは元に戻るが、本堂を売り

れられるのである。

山田の農民、いや我々の祖先がこんな時代にも耐えて土地を守り、部落の人々が助け合いながらの生活の中で何をよりどこ

し合いの中から決意をみたことと推察出来る。本堂の売却代金がどう

に処分されたかは現時点で詳らかにできなかつ

る。山田ではここ数年、建物の火事は発生していません。しかし、昨年一年間に市内で九十件の火災が起き、そのうち、延宝年間(一六七三~一六八〇)京都の人平野清左工門が新田を開拓。これが西山の始めてあり、山田からも移住した。

当小山田ではここ数年、建物の火事は発生していません。しかし、昨年一年間に市内で九十件の火災が起き、そのうち、延宝年間(一六七三~一六八〇)京都の人平野清左工門が新田を開拓。これが西山の始めてあり、山田からも移住した。

たが、当時の人々の願いとして观音さん、お釈迦さん共に未永く保存し遺志を継承してほしかつたのではなかつただろうか。幸い先輩諸氏が立派に引き継がれてきた观音さん、お釈迦さん

火事を

起こらないように

注意しましよう



の汚さに手が出ない」と言つたとか……。また、久さんなる喧嘩早い小男があり、地回りと争うと股間をくぐり急所を突き上げるので、その素早さに人々は恐れたという。

なお、史実としては戦国末期に矢田監物が織田信長の軍と戦つたという記録がある。さらにさかのぼつて、弘仁年間(八一〇年)坂上田村麿の支配下にあった時期もある。



明るい地域社会づくりをめざして

=市長をかこむ懇談会から=

去る10月19日、地区市民センターにおいて、各種団体長、各委員の代表37名が出席し、市側から市長のほか関係部課長が出席、地域振興について、地域福祉について、青少年健全

育成についての課題のもとに懇談会が開催されました。

この席上での質疑応答、意見の発表の主なものは、次のとあります。

一、地域振興のためには、南北道路の早期実現が必要である。
(連合自治会長)

答
(建設部次長)
本年度、ミルク道路より県道までの測量を予定している。ルートは、県道土山線(湯の山街道)川島地内へ接続する考えで、延長はルートによって異なるが、約5キロ、事業費は十数億となるので、国庫補助事業として県へ採択するよう働きかけている。まず、測量を開始して手をつけるとともに、皆さん方のご協力をいただき推進していきたい。

二、西山町東名阪国道以西、山田町東部地域の上水道の敷設をお願いしたい。
(連合自治会長)

三、鹿間町東部の十軒ほどが鈴鹿市下大久保簡易水道となつてないので早急に解決してほしい。
(鹿間町自治会長)

答
(水道局技術部長)

西山町東名阪国道以西は、水道工事は、小山田地内の簡易水道を五十六年度中に上水道に切り替える計画で、水沢簡易水

◇ 地域振興について

ついて

道は、五十七年度中に統合を終わり、五十八年度以降にできるだけ早く実現するようにしたい、また、下大久保簡易水道との関連工事は、組合とも協議し、切り替工事を本年度中に終わりたい。

農業排水については、昨年度耕地課サイドにより六〇年実施された、下大久保簡易水道との関連工事を施工中で、下流連工事を担当する土木課との調整や接点等について問題があるため土木課の計画と調整して対応していきたい。

(産業部長)

農業排水については、昨年度耕地課サイドにより六〇年実施された、下大久保簡易水道との関連工事を施工中で、下流連工事を担当する土木課との調整や接点等について問題があるため土木課の計画と調整して対応していきたい。

◇ 青少年健全育成についての意見

◇ 福祉問題についての意見

四、鈴鹿市と和無田、鹿間との市境界の確定及び排水路の整備と負担区分の明確化、一般生活排水、雨水排水の整備をお願いしたい。
(和無田、鹿間町自治会長)

答
(市長)
鈴鹿市との境界問題は、早く解決しないとだんだんわからなくなっていくため、総務部と協議して進めていただきたい。

福祉は、お互いの人権を尊重し合い、連帯を深めて、市民の幸運を高めていくことが肝要である。住民が自ら考え、自ら行動し、自ら率先して実践行動に移すことが、地域社会づくりを進められるうえでも、地域福祉を高めていくためにも重要である。お互いが友人として、隣人として、社会の恩恵が受けられるような気風を醸成していくことから始め、実践活動は、具体的な課題について地区の合意を得ながら連帶してあらなければならぬ。一人ぐらしの老人、ねたきり老人、障害者など各種の情報を提供し合い、問題の発掘、把握をして、検討を加えなければならない。また、国際障害者年を契機に、如何ように実践活動を具体化すればよいか。ボランティアとして障害者の催しに参加するほか、資金カンパに応ずる等も参加実践の一例である。

また、地域的な課題として、福祉情報のネットワーク化、友

愛訪問、世代交流の催し、スポーツ、レクリエーション、文化の伝承等具体化していかなければならない。

(地区民生委員会長)



団地開発について

(市長の概要説明抜粋)

団地開発の対象地が、農法にもとづく農用地の指定となつております。市農業委員会では、条件付でこの地域の開発活用に同意をしておりまます。この計画を、本市の全体計画の中に組み込んで、理論づけをなし、国、県に承認を。

させなければなりません。地区的皆さんから要望が出されていることは十分承知しております。市農業委員会の皆さんから要望が出されていることは十分承知しております。市農業委員会の皆さんから要望が出されていることは十分承知しております。市農業委員会の皆さんから要望が出されていることは十分承知しております。市農業委員会の皆さんから要望が出されていることは十分承知してお

ご存じですか？

身障者の方たちのための

福祉活動

身体障害をお持ちの方々のための福祉諸施策のうち、主なものをご紹介します。ご利用渋れないよう、また、不明の点は気軽に各地区的民生委員にお尋ね下さるようお願いします。

（このお知らせで「手帳」とは「身体障害者手帳」を、一級とか二級、一種・二種は「身体障害者手帳」に示された障害の等級・種別をいいます）

（1）更生相談：医療・生活・職業等の相談に応じます。外出できない方には出張相談も。

（2）更生（育成）医療の給付：身体障害の軽減・除去のための入・通院医療費の一部または全部をお手伝いします。

（3）補装具の交付・修理：盲人用安全杖・義眼・眼鏡・点字器・歩行補助杖・尿器等。

（4）施設入（通）所：特別な医学的治療・生活訓練・職業訓練等が必要な方や、居宅では自立が困難な重度障害者控除、三・六級の方は特別

四、税金：所得税・市県民税について：一、二級の方は特別

地区の最高齢者

— 小山田地区民生委員 —

小山田地区民生委員 一一番長生き 平尾源右門さん 九十四歳 男性では、内山町 一いつまでも 方々は、次 お元気で！

矢田 あつさん 九十七歳 女性では、山田町 明治十七年九月一日生

小山田地区の人口 (57.1 現在) 5,447人

町 别	世 带 数	人 口		
		男 (人)	女 (人)	計 (人)
山 田 町	670(227)	879	1,012	1,891(234)
西 山 町	138	267	301	568
小 山 町	142	295	304	599
内 山 町	53	116	117	233
六 名 町	43	97	102	199
堂 ケ 山 町	105	242	249	491
美 里 町	30	70	59	129
鹿 間 町	227	455	458	913
和 無 田 町	96	206	218	424
計	1,504	2,627	2,820	5,447

() 小山田老人福祉施設

◎昨年、地区的皆さんの善意の寄附が次のとおり寄せられました。

共同募金 (法人を含む)	日赤社員増強運動
地区目標額 233,700円	特別社員 6世帯 8,000円
地区実績額 254,890円 109%	普通社員 1,007世帯 302,600円
	賛助員 76世帯 20,500円
歳末助け合い募金	計 1,089世帯 331,100円
地区目標額 73,800円	社会を明るくする運動 52,860円
地区実績額 73,800円 100%	

郷土資料館誕生

わたくしたちの先祖から使われてきた生活用具や、農耕機具を保存し、子孫に伝え、お年寄りには昔をなつかしんでいただき、また、子どもたちの教材にと、郷土資料集めが小学校

築し保存していくまで、小学校の旧用務員室（旧ブール上）を整備して郷土資料館にしています。今後、管理運営は自治会や地区社会福祉協議会などで行なわれる予定です。



昔の面影は

門柱と樹木のみに

昨年の講堂の取りこわしにつ

づき、大正、昭和二ヶタ生

まれの卒業生には懐かしい、

当時としては新

しい講堂前

も、この四月

には取りこわ

される予定で

す。

したがつて

旧正門の門柱

と樹木が旧小

山田小学校の

昔をしのばせ

てくれるのみ

となります。

小山田のシンボルマーク決まる

図柄説明

地区的田園と、茶園を意味して、茶の葉で「小」と「山」を、周囲を「田」で囲んで図案化したものです。

鹿間町四一〇一四
島橋 康男氏
の作が入選しました。
このマーク（表紙）は、早速地区旗として作られ、先の

小学校に三階建

増築工事完成

昨年より着工しておりました
ここ五カ年間、給食室、管理棟、ブール、体育館等毎年施設の新築が行なわれ、今年度の特別教室（音楽室、図書室）完成をもって、一応同一敷地に学校施設がまとめられることになりました。

昨年は、青年会活動の一環として、各家庭で読まれた後の不通用の本、眠つてある図書の「持ち寄り運動」と

昨年は、青年会活動の一環として、各家庭で読まれた後の不通用の本、眠つてある図書の「持ち寄り運動」と

図書室から

地区市民センターでは現在、小、中学生向き図鑑、成人用小説、趣味、スポーツ、百科事典など一、三〇〇冊あります。

昨年は、青年会活動の一環として、各家庭で読まれた後の不通用の本、眠つてある図書の「持ち寄り運動」と

一般の寄贈、さらに、本年は自治会の協力を得て新しく購入し、さらに充実をはかっていますので、ぜひご利用ください。

本年度の月別貸出し内訳

	4月	6月	8月	10月	11月	12月	1月	2月
5月	68	180	355	179	219	194	110	255
6月	180	355	86	219	194	110	255	
7月	355	86	38					
8月	86	38	146					
9月	38	146						

受けよう検診

小山田婦人会長 桶口よしあ

みんなが結核についての正しい知識を身につけ、すんでレントゲン検診を受けましょう。

みんなが結核についての正しい知識を身につけ、すんでレン

トゲン検診を受けましょう。

編集後記



◆地区広報第二号発行にあたり「明るい町づくり」を主テーマに原稿を募集したところ、多くの方々から原稿をお寄せいただきありがとうございました。地域に関心をもつ人が多く何よりもよろこびであります。

◆なかでも、各町各話は、第一号に統いて、その町や、町の神社仏閣等、由来をわかりやすく説明され、今後、私たちの生活のなかで大きな資となることだと思います。

◆紙面の都合上、原稿の一部を割愛させていただきましたが、あしからずご了承ください。

◆今後共、地域住民の連携や、発展を期すため、地区広報紙がその一端でも役立てば幸いです。と思いますので、ご協力をお願いします。